ユーザー訪問 なの花薬局 真栄店（札幌市清田区）

「ミスゼロ子」を棚卸業務にも活用 労力の軽減・時間短縮を実現

札幌市、小樽市、石狩市、千歳市など北海道の道央エリアで60店舗（2016年11月現在）の保険薬局を展開する（株）コムファ（本社：札幌市中央区）では、調剤過誤防止対策として（株）クカメディカルのバーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を全店舗に導入。また、「ミスゼロ子」を棚卸業務に活用し、労力の軽減・時間短縮を実現している。

個々の患者さんの背景を考慮して指導

コムファ運営店舗の1つ、なの花薬局 真栄店（札幌市清田区）は2013年7月にリニューアルオープンした。店内は木材がふんだんに使われ、上質で温かみのある空間を演出しており、ゆったりとした待合室スペースに加え、車いす対応のお薬お渡し口や無菌調剤室も設置されている。

近隣の総合病院、心療内科、整形外科の受診患者を中心に1ヵ月約4000枚の処方箋を応需。薬剤師10人、事務員5人のスタッフで対応に当たっている。また、コムファの店舗全体で在宅訪問に積極的に取り組んでおり、真栄店でも個宅訪問を実施している。

なの花薬局 真栄店薬局長の吉村麻裕氏

真栄店薬局長の吉村麻裕氏は「高齢者の患者さんが多く、飲み忘れなどで残薬が目立つ方もおられますので、そうした方には一包化を勧めています。また、他の薬剤や食べ物との飲み合わせなど相談が多いような患者さんには、かかりつけ薬剤師をお勧めするなど、個々の患者さんの背景を考慮した服薬指導やアドバイスに努めています」と話す。

国道36号線に面し、広い店舗面積を誇る、なの花薬局 真栄店

コムファの店舗では、調剤ミスの防止以外に棚卸業務でも「ミスゼロ子」を活用している。左上は棚卸処理を行う際のハンディターミナル画面（見本）

「ミスゼロ子」の活用度の高さに手応え

コムファでは調剤ミスを防ぐ目的で、2010年から全店に「ミスゼロ子」を導入。その効果は顕著にあらわれ、「薬品の取り間違い、規格間違い、調剤漏れが激減しました」と同社取締役（薬剤師）の山口紫野氏は説明する。真栄店の備蓄医薬品は約2300品目だが、各店舗とも後発品の取り扱いが多くなり、類似医薬品の増加に伴って調剤ミスの誘発リスクも増大しているため、「ミスゼロ子」の有用性がより増したという。

コムファでは、ミスゼロ子のピッキングモード機能を使用し、「原則、レセコン入力→入力監査→ピッキング→鑑査、投薬と言う流れを順守している」（山口氏）。これは、後発品への変更や一般名処方での処方箋が増えているため、レセコン入力の間違いがないかを再確認するためだ。

吉村氏は「『ミスゼロ子』を通してピッキングしないと今は不安で仕方がありません。『ミスゼロ子』を使ってしまうと、使っていなかった時代には戻れないという思いがあります」と実感を込めて話す。

また、昨年9月からは棚卸業務でも「ミスゼロ子」を活用するようになった。今までは、紙ベースの薬品リストを印刷→実地棚卸数を手書き→既存の在庫管理システムへ実地棚卸数を手入力していた。

「ミスゼロ子」の棚卸オプション機能を利用する場合は、ハンディターミナルで薬品バーコードをスキャン→実地棚卸数を入力・確定→既存の在庫管理システムへ連動、反映させる。

「棚卸業務に『ミスゼロ子』を利用する際、既存の在庫管理システムと連動するようにしてもらいました。結果的に大幅な労力の軽減や時間の短縮につながりました」と山口氏は「ミスゼロ子」の活用度の高さに手応えを感じている。